

ランチセミナー

新しい、猫の変形性関節症 (OA) に伴う疼痛を緩和する治療薬 (抗体医薬) 『ソレンシア TM』について 11:30 ~ 12:30

ゾエティス・ジャパン (株) コンパニオンアニマルビジネス統括部テクニカルサービス 獣医師

大日向 剛 Oohinata Tuyoshi

ソレンシアTMは猫の変形性関節症 (以下 OA) の痛みアプローチする製剤として、非ステロイド系抗炎症剤 (NSAIDs) と異なる革新的な作用機序による世界初・唯一の OA 治療薬として開発されました。

OA は、傷害を受けた軟骨や滑膜細胞などの関節組織から放出される炎症メディエーターや神経成長因子 (以下 NGF) などにより炎症と痛みの増強が起こり、関節組織の肥厚や骨棘の形成など関節組織の変化により行動が妨げられていきます。ソレンシアは、慢性疼痛に関与するとされる NGF と結合し、NGF 介在性の痛みシグナルの伝達を抑制することによって OA に伴う疼痛を緩和します。

数多くの猫が痛みを感じている一方、従来の鎮痛薬による治療については副作用が課題となる場面もあることから、十分に治療できていないという現状もあります。

そのような中、抗 NGF モノクローナル抗体製剤であるソレンシアは、肝臓、腎臓、消化器への負担が少ない抗体医薬という高い安全性と、注射による飼主の投薬負担軽減、1 ヶ月間の OA の疼痛緩和効果持続という特徴により、新たな OA 疼痛管理に貢献できる製剤であると考えております。

市民公開講座 子犬・子猫に行うべき問題行動の予防やしつけの工夫

11:30 ~ 12:30



麻布大学獣医学部動物応用科学科伴侶動物学研究室 講師

久世 明香 Kuze Sayaka

イヌやネコは伴侶動物として私たちにとってとても身近な存在であり、国内の飼育数はこどもの人口を上回っている。単に飼育しているのではなく、家族の一員としてともに暮らし、喜びや癒しを与えてくれる存在であると実感している人も数多くいるだろう。このようなイヌやネコの飼育による ヒトへの良い影響については、経験的なものだけでなく、学術的な報告も増えている。その一方で、イヌやネコの行動に困り、飼育が困難になることもあり、このような問題行動はヒトと動物の双方の福祉を損なう可能性がある。

問題行動の予防には、イヌやネコという動物に対する理解と幼少期の工夫が重要となる。幼少期には、体が成長し、運動能力が発達するとともに、様々なことを学習し、心の成長も見られる。イヌとして、あるいはネコとして、正常に心身を発達させるだけでなく、人間社会で過ごしやすくなるために積極的に教えていくべきこともある。

本講演では、発達過程で行うべき予防や工夫について、行動学的な影響を中心に紹介していく。

特別講演 猫の尿管結石に対する外科的対応

～緊急的尿路確保 (腎瘻チューブ)、外科手術 (尿管切開、尿管膀胱新吻合、SUB 設置) ～

11:30 ~ 12:30



日本動物高度医療センター 泌尿生殖器・消化器科

山崎 寛文 Hirofumi Yamasaki

近年、猫において尿管結石が原因である尿管閉塞が増加しており、手術対応する頻度が増えてきている。猫の尿管結石はほとんどの場合、シュウ酸カルシウム結石であり、内科治療による溶解は期待できない。輸液療法を中心とした内科治療により結石が膀胱に排石される場合もあるが、排石されず上部尿路鬱滞が持続する場合や高窒素血症が改善しない場合には外科的介入が必要となる。今回の講演では、尿管結石に対する外科的対応のさまざまな選択肢を挙げ、その概要を説明するとともに当センターでの術式選択について述べていく。

また、尿管閉塞が強く疑われ重度高窒素血症のため緊急的な外科対応が適応であっても、一般診療においては対応が難しい場合もあると考えられる。このような場合、二次診療施設や他施設へ紹介することになるが、紹介できるまでの期間に必要な処置や検査、気を付ける点について述べる。